路地裏の舞台にようこそ2024　参加作品

羊とドラコ　おやすみ前公演

『また会いましょう、ってね』

著　竜崎だいち

〈登場人物〉

こもれび 宙（そら） ……　喫茶コスモスの店長代理

富野　……　富野商会の次期社長　宙の友人

葵　……　大通りを挟んだ駅向こうのバーの店主

のどか　……　ハンドメイド作家　宙の友人

松永　……　喫茶コスモスの常連　宙の両親の友人

母　……　宙の母親

父　……　喫茶コスモスの店長　宙の父親

1．日常

ガラガラガラ。シャッターの開閉音が店の外から聞こえてくる。
次いで、暗い店内に女が入って来る。手に小さなレジ袋を持っている。

宙　あつー。

慣れた足取りで厨房内に入り、店の明かりを点けていく。
どうやらすでに、店の準備はほぼ整っているらしい。
宙、持っていたレジ袋を冷蔵庫に放り込み、
いくつか残りの準備を済ませ、
店前の札をひっくり返し、【準備中】から【営業中】にする。
最後に店内のＢＧＭをかける。

宙　……。

宙、ひと息ついたのち、カウンター内で作業をはじめる。
ややあって扉が開き、お客・松永が入って来る。

宙　……（松永の姿を確認して）、いらっしゃいませ。

松永　……。

松永、宙の声がけに軽く会釈。
やはり慣れた足取りで二人掛けのテーブルにつく。
宙、松永に水を出す。
注文は聞かず、そのままカウンター内に戻り、コーヒーを淹れ始める。
松永もそれについて何も思わない。
汗を拭いたりしながら、ただ待っている。
少しの間、微かに音楽だけが流れる、二人きりの静かな時間が過ぎる。

松永　……昨日。久しぶりにねぇ。

宙　え。なに。
松永　久しぶりにねぇ、家庭用のプールを見たんだよ。
宙　へぇ。最近なかなか見ないよね。（準備しながら相槌はうつ）
松永　あの、あっちのマンションの下のガレージにねぇ、ちっちゃなプール出してね、女の子二人とお父さんが遊んでたんだ。
宙　まだ暑いもんねぇ。気持ちいいだろうけど、焼けそう。
松永　うん。……宙ちゃんもプール好きだったでしょう、昔。
宙　あたし？　どうだっただろう、覚えてないや。
松永　隣のガレージにねぇ、毎年ちっちゃい黄色いプール出してねぇ、親父さんと遊んでたんだよ。
宙　（少し、笑う）ふーん。
松永　前通ったら、水鉄砲で水かけられてね。
宙　えー、あたしそんなことしてたんだ。お転婆だ。
松永　うん。親父さんがね、やれって言うのよ。
宙　店長が。
松永　そう。二人してしつこいんだ。追いかけ回されて、びしょびしょになった。
宙　全然覚えてないや。でもなんかごめんね。
松永　覚えてない。
宙　うん。写真はあるよ。でも覚えてはないなあ。
松永　そう。

宙、松永にホットコーヒーを出す。
出しながら、会話は続く。

宙　（コーヒーカップを置いて）どうぞ。
松永　親父さんはどう。
宙　んー。ぼちぼち。
松永　最近、散歩してるのも見なくなっちゃった。
宙　……言ってなかったっけ。転院したの。
松永　…あーー、そうか。
宙　次、ちょっと遠い病院で。
松永　じゃあ、なかなかお見舞い行けないね。
宙　あたしはね。

松永　アキラさんは、毎日行ってんの。
宙　それがさー。

と、店の扉が開く。お客・のどかが入ってくる。

宙　いらっしゃいませ。
のどか　あーすずしー。
宙　お、いらっしゃーい久しぶりぃ。
のどか　つかれたー。
宙　納品終わり？
のどか　そう。
宙　何する？
のどか　クリームソーダの気分。
宙　はいよー。
のどか　お、おっちゃんこんにちは。
松永　……。（手を挙げるなりして軽く会釈）

のどか、カウンターに座り、スマホをいじっている。
クライアントに発送完了のメールでも打っているのか。
宙、のどかの前に水を出して。

宙　はい、ひとまず。
のどか　（メール送信完了）よしっ。ありがとー。

のどか、水を飲んで、一息。

のどか　もうさー、ずっと家で仕事してるからさあ、たまに家出ると暑い暑い。
宙　え、納品だったら、そこのコンビニ行くだけでしょ。
のどか　それが暑いんじゃない。もう汗だく。この距離で。
宙　ジムで汗かきまくるのとどう違うの。
のどか　あれはあれよ。汗かきに行くもんだから、ジムはね。
宙　へー。
のどか　シャワーまでがワンセットだから、ジムはね。おわかり？

のどか、顔の汗をぬぐうためにお店のナプキンを使っている。
ナプキンが汗で顔に張り付いている。

宙　あそ。ナプキン貼り付けないの。
のどか　ちなみに納品は、ここで一服するまでがワンセット。
宙　そりゃありがたいことで。あ、そうだ。
のどか　なに。
宙　こないだ言ってた旅行の話さ、あれ行けなくなっちゃった。
のどか　嘘。
宙　ごめん。店開けなきゃいけなくなっちゃって。
のどか　えー、その日おばさんに頼むって言ってたじゃん。
宙　それがダメになっちゃって。
のどか　じゃ日にちずらす？
宙　んー、それでもいいんだけど、ちょっと当分予定読めなくって。
のどか　そんなに忙しいの。
宙　んー、ていうか。……実は、今うち、一人なのよ。
のどか　ん？　どゆこと。
宙　だから。お母さん。今、マンスリー借りて、別の場所に住んでて。

それを聞いていた松永が思わず吹き出す。

宙　そう、そうなの。笑っちゃうでしょ、あのお母さんがよ、看病のために家借りたんだよ。
のどか　看病って、お父さんの？
宙　うん。こないだね、って言っても一ヶ月くらい前なんだけど、転院して、次ちょっと遠いんだ、病院が。で、お母さん通うの面倒だって言い始めて、こないだ突然マンスリー借りてきて、今家にいないんよ。
のどか　まじか。店は。
宙　店はまあ、いつも一人で回してたから問題ないよ。おやすみあるし。
のどか　言ってよ、そういうことは。
宙　ごめん。でもまあ、こっちの話だし。
のどか　友達じゃん。

宙　……ありがと。
のどか　ご飯は？
宙　ん？　ちゃんと食べてるよ。
のどか　食べに行ってい？
宙　そっちか。いいよ別に、いつでも来てよ。
のどか　やった。ただで宙のごはん食べれるぅ。
宙　こっちにも来てよ。
のどか　来る来る。めっちゃ来る。でも、旅行どうしようね。
宙　んー……だねぇ。
のどか　時期ずらす、って言っても、１０月ぐらいまでだもんなぁ、見れるのは。
宙　……。

宙、冷凍庫の中身を確認して。

宙　あ。
のどか　なに。
宙　ごめん、アイスクリーム切れてた。
のどか　え。
宙　ちょっと買ってくるわ。店番してて。
のどか　え、じゃいいよ、オレンジジュースでいいよ。
宙　いい、いい、いい、いい。すぐそこだし。あ、もしかして急いでる？
のどか　いや、全然。なんなら暇。
宙　ならオッケ。今日は特別にスーパーカップのせたげる。
のどか　商品名。
宙　明日にはケンちゃんとこの配達で２リットルのやつ届くんだよね、だから今日だけ特別。チャリでピャッて行ってくる。
のどか　まじか。気をつけて。ゆっくりでいいからね。
宙　あ、暇だったらオセロでもしてて。じゃ、ちょっとだけ行ってきまーす。

宙、颯爽と出かけてしまう。

のどか　……。

のどか、宙の後ろ姿を見送って、ため息ひとつ。
ふと、松永と目があう。

のどか　……オセロでも、します？

松永　……。

松永、無言でイエスともノーとも取れないようなリアクション。
のどか、オセロは諦めて、ぼんやりと宙の帰りを待つことに決める。

のどか　……はーあ。（ため息）

転。

2．現状

宙、カウンターの中で何やら作業中。
カウンターには首元にタオルを巻いたラフな格好の男、富野がひとり。
置いてあるテーブルゲームをいじりながら、宙に話しかけている。

富野　こもれびさんはさぁ。
宙　はぇ？
富野　ぼくの過去の恋愛が気になりますか。
宙　……はい？？
富野　あ間違えた。付き合ってる人の過去の恋愛が気になりますか。
宙　別に。気になりません。どしたの。
富野　最近すんごい聞いてくるんだよ。
宙　ちさっちゃんが？
富野　そう。
宙　……教えてあげたら。
富野　教えてあげたらいいのかな。
宙　いや知らないよ。教えたくないの。
富野　教えたくないわけでもない、ような、きもする、ような。
宙　元カノと、まだ、やましい関係があったりするの。
富野　それはない。ない。
宙　じゃ教えなよ。
富野　いや。でも大体わかってるの。教えたって不機嫌になるだけでしょ、女の人は。
宙　そうかもねえ。人によるけどねぇ。ちさっちゃんは……（察して）そうだねぇ。
富野　不機嫌は面倒でしょ。
宙　そうだねえ。
富野　不毛だね、教えても教えなくても不機嫌。
宙　仕事戻んなよ。
富野　今日は終わったの。

宙　こっちは仕込み中なの。
富野　手伝おうか。
宙　結構です。汚い手で触らない。
富野　ごめんねごめんねー。
宙　だいたいさ、もうすぐ結婚するんでしょ。
富野　うん。
宙　過去の恋愛くらい言えない仲でどうすんの。
富野　結婚すんのかな。
宙　はあ？　あのね、それはね、絶対言っちゃダメな言葉ね。
富野　マリッジブルーかな。
宙　きも。
富野　ちょ、失礼。
宙　喧嘩でもしたの。
富野　……。（黙秘）
宙　なに、もー。今の話は聞かなかったことにしてあげるから、ちさっちゃんにも言わないから。あ、あたし伝票サインしたっけ。
富野　もらった。
宙　うん、じゃあ、配達ご苦労様です。帰った帰った。
富野　こもれびさんはさぁ。
宙　なに。
富野　定例会来ないの。
宙　え？　……なに（なんでそんな話）。行かないよ。
富野　なんで。
宙　なんでって、あたしが行ってもね。
富野　でも今は店長代理でしょ。
宙　……。
富野　組合のおっさんどもがね、こもれびさん来てくれるの待ってんだよね。
宙　うそ。
富野　ほんと。若い子が増えるのはいい事だとか言って。今度、組合で広報の係決めるんだけど、「だったら宙ちゃんでいいんじゃない、そうしようよ」って、勝手に言われてるよ。
宙　うそ。
富野　ほんと。このままだとたぶん、勝手に決まっちゃうよ。

宙　それは困る。ていうか、行ってるんだ、組合の定例会。
富野　行ってるよ。
宙　意外。
富野　だから、失礼。
宙　あー。ケンちゃんに言われてだ。
富野　次期社長だからね、ぼく。組合のことも知っとかないとね。
宙　富野商会二代目ぇ。
富野　二代目言うな、こもれびさんもそうじゃん。
宙　……さあね。
富野　いやいやいや、さあねって、すでに現状そうでしょ。
宙　……。
富野　こもれびさんはね、店継ぐと思ってたよ。
宙　なに、いきなり。
富野　似合ってるって、店長。
宙　似合ってないよ、ていうか、富野が言うな。
富野　なんで。
宙　昔さんざんあたしに、「喫茶店の店長なんか似合わない」って言ってきたくせに。
富野　そんな時もあったかな。
宙　なんだよそれ。（思いついて）富野がやってよ、広報。
富野　やだよ。
宙　なんで。
富野　ぼくのことは眼中にないの、おっさんどもは。広報ってなんかあるたび前出なきゃいけないでしょ、古い路面店街のイメージアップのためには、若い女の子が前出て欲しいんだって。
宙　あたし若くないけどね。だったら富野でもいいじゃん、ビジュアル悪いわけじゃないし、ちさっちゃんと一緒にやったら？
富野　いや、ちさとは定例会来てないから。
宙　経理じゃん、一緒に行けばいいじゃん。
富野　むりむり。絶対嫌がる。不機嫌になる。
宙　（察して）まあそこは任せるけど。
富野　……店長になるんだろ。
宙　ならないよ。

富野　そう聞いた。
宙　え、誰から？
富野　うちの社長。
宙　……ケンちゃん？
富野　まあ実際聞いたのは、こもれびの親父さんがもう店に戻るのは厳しいらしいって、そんな感じの話だけど。
宙　……。
富野　不安になってることがさあ、あるんだったら、相談乗るし。こもれびさんが店長やってくれたら、いろいろ、安心するっていうか。
宙　ごめん富野、ほんとに、仕込みあるから今日は。

と、宙のスマホに着信。

宙　あ。お母さんだ。電話出るから。
富野　――、また話しに来るから。

富野、しぶしぶ、店を出る。
宙、富野が退店したことを確認して電話に出る。

宙　もしもし。（お母さんだけど、そっちはどう？）……まあ、ぼちぼち。マンスリーはどうよ。住み良い？　……ならいいけど。お父さんどう？　……ふうん。……そうかそうか。喧嘩とかしてない？　……あそ。日曜にはまた顔出すから。……流石に行くって。……大丈夫。……うん？

電話の向こうで母が、閉店についての話をしている。
組合に知らせたり、富野商会と解約の話をしたりしなくてはならないと。

宙　……わかった。……え、あたしから？　……んーー……、わかった。はい。また日曜に、はい……じゃあね。

宙、通話を切る。ため息。
と。
スマホの画面通知に、ラインの新着を知らせる表示が出ている。

送り主の名前を見て、驚愕する宙。

宙　え。

慌ててラインのアプリを開き、その人のタイムラインを開けてみる。
しかし。残っていたのは、
「メッセージの送信を取り消しました」の文字のみ。

宙　「メッセージを、取り消しました」……なんだよ……。もう。

宙、うなだれる。
転。

3．昔の話

これは、宙がまだ小学生だった頃の話。
宙の父親と母親。母親が旅行に行くような荷物を持って来店。

父　宙はどうした。
母　松永さんとこ。荷物まとめたら迎えに行きます。
父　学校、どうするんだ。
母　転校させます。
父　本気か。
母　はい。本気です。今回ばかりはほとほと愛想がつきました。今までお世話になりました。
父　……悪かった。
母　はい、そうですね。
父　いや、そうですね、じゃなくて、な、悪かったって。
母　悪かった、悪かった、悪かった、何回聞いたかしらねぇその言葉。もう下手な口車には乗らないって言ってんのよ。
父　いや、今回のは本当に悪いと思って。
母　じゃあ、今までのはどう思ってたの、ねえ。そこのリフォームも、あの趣味の棚も、倉庫のアンティークの食器も、使ってないイタリア製のサイフォンも、そこのシャンデリアも。全部悪いと思ってなかったんですか。
父　いや、それは、だな。
母　あなたはなんにも分かってない。子供ひとり育てるのがどれだけ大変か、なんにも分かってない。あたしがどれだけ節約して、あの子の学費のために貯金してるのか分かります？　喫茶店なんて大して儲からないのあなたが一番よく知ってるでしょ。だから、節約しなきゃいけないんです。
父　分かってる、分かってる。うん、俺には絶対できない事だ。だから、ほんとに、そこは、ありがたいと思ってる。
母　ありがたいと思ってるなら、貯まったそばから湯水のごとく散財する理由を400字以内の反省文にまとめてどうぞ。
父　……うん。

母　うん、じゃなくて。
父　……うん。
母　うん、じゃなくて。
父　……。
母　なによ、今日はしおらしいじゃない。
父　転校なんかさせたら可哀想じゃないか。
母　理由を作ってるのはどこのどなた？
父　俺は、この店を少しでもよくしようと思って。
母　じゃあ、今回のベルギーから取り寄せたコーヒードリッパーも、2、3ヶ月遊んでほったらかしにするんじゃなくって、ちゃんと使ってくださいね。
父　もちろん、そうするつもりだよ。
母　そうしないから怒ってるんでしょう。高いおもちゃばっかり増やして、宙のおもちゃ買ってる方がまだましだわ。
父　趣味に金使って何が悪い。酒もたばこもギャンブルもやらないんだ。
母　聞こえてますよ。
父　お前だって、ブランド物のワンピースとか、たまに買って来るだろう。
母　宙のためです。お母さんは綺麗な方がいいじゃないですか。
父　俺だって、最終的にはこの店は宙に……。
母　なんです？
父　……なんでもない。
母　宙、明日から自然学校なの。五泊六日の。
父　自然学校？
母　知らなかったの？　……宙が帰る頃には戻りますけど、あたしもちょっとバカンスしてきます。しばらく一人で頭冷やして。
父　おい、明日の営業、どうするんだ。
母　なんとかしてください。
父　いてくれないと、困る。モーニングとか。
母　仕込みくらい、一人でなさったら？
父　昼間の、ホットケーキ、あれ誰が焼く。
母　あなたが焼いたら？
父　オムライスも。俺が焼いたら、あんなに綺麗にならない。
母　そうね、練習なさったら。いい機会だし。
父　お母さん。

母　あたしあなたのお母さんじゃありません。
父　……。おまえ、富野さんたちがなんか変な事言いふらしてるの知ってるか。
母　なんです。
父　喫茶コスモスにカップルで行くと、そのカップルは別れるってな。
母　はい？
父　俺たちが営業中も喧嘩ばっかりしてるから、連中面白がって、根も歯もない噂言いふらしてるんだ。
母　離婚したらその噂話、本当になるかもしれませんね。
父　冗談でもそういうこと言うな。
母　冗談で済むかどうかは今後のあなた次第ですからね。
父　……わかった、分かったから。アキラさん。
母　なに。
父　無駄遣いは、しない、極力。
母　金輪際。
父　できる限り。
母　金輪際。必要な物以外、許しません。
父　分かったよ。
母　今度やったらほんとに離婚ですからね。
父　そうなったら、俺のコーヒーゼリーだけがこの店の主力になるわけか。
母　一週間はそうしてくださいね。
父　おい、ほんとに明日来ないつもりか。
母　誰が来るって言いました？

また口論が始まるか、と思いきや。
店の電話が鳴る。

母　はい、喫茶コスモスです。ああ松永さん、すみません、もうちょっとで迎えに……え、宙が？　自然学校行かない？　なんで……（理由を聞いて、脱力）……、ごめんなさい松永さん、すぐ迎えに行くんで、もうちょっとだけ見ておいてもらってもいいですか、ええ。はい、すみません。はい。ごめんください。

母、電話を切る。

父　なんだって。

母　こもれびさん、一緒に来て。

父　なんで。

母　宙が、自然学校から帰ってきたら家も喫茶店もお父さんもお母さんも全部なくなっちゃってたらどうしようって、泣いてるって。

父　……。急ごう。

ふたり、急ぎ足で喫茶店を出ていく。

転。

4．心配症

ふたりと入れ替わりで、葵と富野が店内に入ってくる。
葵が宙の代わりに店番をしているところへ、富野が配達にやってきた模様。
営業中なのに閑散としている喫茶コスモスの売り上げを心配している富野。
これはそんなふたりのやりとりがややあってからの、会話である。

葵　恋人同士で喫茶コスモスに行くと、その二人は破局する。謎のジンクスだけが残って、ＳＮＳでお客さんが呟いてなぜかプチバズりしたのが数年前。その頃はちょっとだけ忙しそうだったけど、ＳＮＳって流行るのも早いけど廃れるのも早いよねぇ。まあ、今は宙ちゃんひとりだから、これぐらい暇な方がいいのかもしれないけどねぇ。

富野　葵さんって、色々知ってますね。

葵　伊達にケンちゃんの親友やってないよん。

富野　そっすね。

葵　そーよー。

富野　というか葵さん、いいんですか、ぼくと話してて。

葵　なんで。

富野　自分の店。

葵　あー、ナノちゃんに任せてるから大丈夫。

富野　あの敏腕バイトさん。

葵　そうそう。あ、今週の発注またナノちゃんに聞いといてね。

富野　もうどっちがバイトか分かんないな。

葵　失礼な。店長はわたしだよ。

富野　こもれびさんも人に店番やらせて何やってんだか。

葵　なんかあったらいつでも呼んでって言ってあるからね。宙ちゃん今はひとりだし、助け合いの精神よ。

富野　……。

葵　で。二代目は宙ちゃんと、このお店が心配なわけか。

富野　それやめてください。

葵　それって。

富野　二代目。

葵　いいじゃん、言いやすいし。

富野　……。実際、ここ数ヶ月でメニュー数もちょっと減ってるんですよね。親父さんがこだわってたメニューを休止してるのは分かるけど、自分で増やしたランチも最近やってないし。

葵　よく見てんだね。

富野　別に。

葵　別に？

富野　注文減ってるんで。まあ、それだけっすね。

葵　ふーん。で、この店がなくならないか心配してんだ。

富野　なくなるとは思ってませんよ。経営的にどうなのかなって、ちょっと心配はしてますけど。

葵　ふーん。

富野　覚悟持って継がなきゃいけないじゃないですか、お店を継ぐって、生半可なことじゃないし。ただ店を回すだけで、これまでと同じように上手くいくほど今の時代甘くはないし。あいつ、そういうところノホホンとしてるっていうか、なんか刹那的っていうか、考えるの後回しにしてるような気がして。

葵　……。ていうか配達だよね、サインしよっか？

富野　……あ、はい。

富野が納品書を取り出して確認、葵に納品書を差し出す。

葵、サインしながら。

葵　宙ちゃんは宙ちゃんの考えがあんのよ。

富野　はい？

葵　あんま無理強いしてやんなって。

富野　なんですかそれ。……してませんよ無理強いなんか。

宙が帰宅する。

宙　ごめーん葵さん、お待たせ。

葵　おかえりー。

宙　あれ、富野じゃん、あ、配達だったごめん。

富野　おう。
葵　あー、大丈夫大丈夫、今サインしといた。
宙　葵さんサンキュー。富野もありがとね。
富野　うん。ここに置いてあるから。
宙　はいはーい。
葵　じゃあ、わたしも自分の店帰ろっかな。
宙　ああ、葵さん、あの、ちょっとだけ待って。
葵　なに。
宙　ごめん、ちょっとだけ。（富野がまだいることに気づいて）……あ、富野、ありがとね。
富野　うん。？
宙　うん、ありがと。じゃあ。
葵　じゃあ。（富野に目配せ）
富野　おう……、（何かを察して）じゃ、毎度ぉー。

富野、自分だけ疎外されたことを感じつつ、しぶしぶ店を出る。
富野が退店したそばから、ふたり、女子トーク全開。

宙　葵さぁん。
葵　なになに、どしたの。
宙　これ、どう思う？

宙、自分のスマホを操作して、ある人物とのラインの画面を葵に見せる。
しかし、トーク画面には「送信取り消し」の文言のみ。
葵、困惑。

葵　いや、どうと言われても。これ何。
宙　8年ぶりの連絡が、これなんだよ。
葵　誤送信したから取り消した、んじゃない？
宙　だとしてもよ、あたしのタイムライン開くことある？
葵　（ラインの相手の名前を読んで）この名前……。
宙　そう。
葵　……（思いつく）これ、あいつか！

宙　そう。
葵　ブロックしてなかったの。
宙　非表示にはしてた。
葵　ブロックしなよ。
宙　まあね。
葵　今更何の用だよ。今こいつどこいるの。って知らないか。
宙　今はイタリアのあたりかな。
葵　なんで知ってんの。
宙　インスタ。
葵　見てるの。
宙　たまにね。半年に一回くらいね。……だってそもそも嫌いになったわけじゃなかったもん。尊敬してたからなぁ、考え方とか色々。今でも言われたこと色々思い出すし。こっそり指針にしちゃってるところもあるんだよ。救われたこともたくさんある。この8年の間にも、何回も。
葵　……。
宙　でも実際のあの人はめちゃめちゃ遠い所にどんどん進んでて、きっと、あの人自身も色々変わってるはずで、変化したあの人のことを、あたしは知ることもなくて。あたしは8年前から変わってなくて。8年前の言葉を今だに隣に置いていて。ずいぶん置いてかれちゃったなぁって……。
葵　……。
宙　そんな人があたしに一体何のメッセージ送ろうとしたんだろうって。気になっちゃった。でももうメッセージ送る勇気もないや。
葵　閉店はするんでしょ。
宙　……。するよ。
葵　もう待たないってことだ。
宙　そんなつもりで続けてたわけじゃないよ。
葵　そんな時もあったでしょ。
宙　……うん。
葵　閉店のこと、まだみんなに言わないの。
宙　言わなきゃねー、お客さんにも。
葵　お客さんもだけど。
宙　そうだねぇ。お世話になってる方にも。
葵　……。

宙　……大丈夫よ、あたし何も言わずに去ることは出来ないから。さよならを言わないことは、大きな罪だと思う。だから。

店の入り口の方から、チリリン、ばたんと音がする。
実は少し前から、富野が店に戻ってきていた。
配達用のコンテナを置いたまま退店したことに気がつき、戻って来た様子。
ただ、先ほどのふたりの様子に配慮してか、
または、自分のいない間に何を話しているのかが聞きたかったのか、
扉を少し開けて、中の会話をこっそり盗み聞いていた。
しかし、聞こえた会話の内容に、たまらず、出ていった。

宙　いらっしゃいませ、ん？
葵　誰もいないけど。
宙　なに？　……さっきまで誰かいた？

のどかが入ってくる。

のどか　今日も暑いねー。
宙　のどか、今誰かとすれ違った？
のどか　ああ、いつもの配達のお兄ちゃんが帰ってったけど。
宙　富野だ。
葵　あいつ聞いてたな。
宙　ごめん、ちょっと外見てくる。
のどか　え。
宙　葵さん、もうちょっと店番お願い。
葵　えー。
のどか　ちょっと、宙？

宙、外へ。

のどか　え、なに、どしたの？
葵　……ご注文は、何にします？
のどか　……じゃあ、オレンジジュース。

葵　はい、少々お待ちください。

のどか　……。

葵、カウンター中へ。のどかは、困り顔。

転。

5．ホーム

転換中の様子。葵はのどかにオレンジジュースを提供。
宙がひとりで戻ってくる。葵はそれを見届け、店を出る。
店内には、のどかと宙だけが残る。
宙は、のどかに閉店のことを伝えた模様。

のどか　……。
宙　……。
のどか　具体的に、いつまで営業するとか決めてるの。
宙　多分、来月末まで。
のどか　あと一ヶ月ちょっとか。
宙　うん。そうだね。
のどか　わかった。
宙　……。
のどか　そっかー、閉店かぁー。残念だけど、閉店まではいつも通り通わせてもらうから。
宙　うん。ありがとう。
のどか　閉店した後は、ここはどうなんの？　取り壊し？
宙　ううん、ビルがなくなるわけじゃないから。年内に完全退去の予定。
のどか　退去か……それは大変そう。
宙　そうなんだよね。正直、年内に片付くかどうかの方が心配。店だけじゃなくて、奥に倉庫もあるんだよ。そっちも物だらけなんだよね。
のどか　人手足りなかったら呼んでよ、手伝うし。
宙　いや、流石にそれは。
のどか　宙。
宙　いや、でも、お礼とかも多分渡せないと思うし。
のどか　そこは、宙のごはんで手を打とうじゃない。
宙　でも。
のどか　わたし案外、力仕事いけるクチだよ。（筋肉をなんとなく見せつけて）
宙　……うん、そうだと思う。あたしより戦力になりそう。

のどか　任せときな。
宙　ありがとう。ものすごく助かる。
のどか　うん。……宙自身はどうするの。
宙　……んー？
のどか　仕事とか。
宙　だねぇ。
のどか　まあ、宙だったらどんな仕事でもそつなくこなしそうだけど。
宙　……のどかはさあ。
のどか　？
宙　全部捨てて、置いて、越してきたでしょ。
のどか　なに突然。……「置いて」ねぇ、……。特になにも置いてきてないけどね。
宙　そうなの。
のどか　うん。どしたの。……何か聞きたい？

のどかは、つとめて優しく、宙に問う。

宙　不安じゃなかった？
のどか　……。あそこに居続ける方が苦しかったからなぁ、あの時はそれどころじゃなかった。
宙　……。
のどか　……でもねえ。
宙　なに。
のどか　しばらくしてからねえ、自分の中にずーっと「寂しい」ってのが居続けてることに気づいたんだよ。
宙　寂しい。離れてしまったことが？
のどか　それは違うな。感覚の問題だから、宙には分からないかもしれないけど。宙は自分の家だったり、ここにいる時ね、ここが自分のホームだって思うでしょ。
宙　うん。
のどか　だらだらしていいし、我儘言えるし、理不尽に怒っても甘えてもそれなりに許してもらえるし。思いっきりおならできるし。
宙　なにそれ。

のどか　異論は認めない。
宙　……うん。

ふたり、破顔して。

のどか　とにかく、宙にとって一番深く呼吸が出来る場所。
宙　……うん。
のどか　感覚なんだけどね、わたし、この街が次のホームだと思って越して来たけど、ここはホームにはなってないし、あの街に戻っても、あそこにはもう何もないし、……んー、なんかまどろっこしいな、とにかくだ。わたしという人生のここまでの見解だけども、失ったホームは、この先どんないい場所に辿り着いても、戻らないだろうって思ったわけなのよ。
宙　……のどかは、わたしがここを手放すの反対？
のどか　違う違うそういう意味じゃない。なんだったら逆。あのね、ここの代わりなんてそうそう見つからないの。でもそれで全然よくて、ていうかそりゃそうで、そう簡単に代わりが見つかったらやばいって思うの。わたしはね、ここから先どこに行こうとも、この「寂しい」を生涯連れていけるんだって思ったら、なんかホッとしたんだ。……この感覚分かるかな。……どうあれ幸せだったんだなあって思えたし。
宙　……。
のどか　宙はこの先、どうしたいの。
宙　……。

宙、少しずつ。

宙　ここは継ぎたくないって言った時、お母さんは全然反対しなくて。なんだったらちょっとせいせいしてて。思いっきり看病した後は、お母さんいろんなところ旅して暮らすつもりだから、あんたは好きにしていいよって言われたんだ。
のどか　好きにね。どう好きにするの。
宙　……。
のどか　宙のことだから、もう決めてるんでしょ。

宙　岡山にね、専門行ってた時の友達が店やってて、色々こだわってるところが、あたしがやりたいと思う事と一緒で、そこに行ってみようと思ってる。もう話もついてる。

のどか　店って、ここみたいなところ？

宙　正解。色々考えた結果、あたしは結局、こういう場所で働きたいんだって気持ちに落ち着いた。……でもね、ここじゃないんだ。お父さんもお母さんも大好きだし、このお店も、大好きなのに、ここは違うって思うんだ。ごめんなさい……あたしのただの我儘だ。

のどか　我儘、どんとこい。全然大丈夫。

宙　のどかは、あたしがいなくなったら寂しい？

のどか　もちろん。少しの間は寂しいと思うよ。

宙　少しの間か。

のどか　うん。人生てね、よく出来てんのよ。

宙　？

のどか　わたしが寂しいな、友達欲しいなって思うでしょ、そしたら現れるようになってんの。「代わり」じゃなくて、「別の」誰かが現れるんだわ。わたしに宙が現れたように。宙の「代わり」じゃなくて、「別の」誰かが。

宙　そうか。なら、寂しいけど安心だ。

のどか　いやいやいや、安心しないで。

宙　え。

のどか　わたし宙とここで切れるつもりないからね。宙がいなくて寂しい気持ちは当分持っていたいから、ラインするし、岡山にも行くから。

宙　……分かった。じゃ、めっちゃ来てよ。

のどか　まじか。めっちゃは大変だ。もう住む方が早いな。

宙　うそ。

のどか　まだ何にもわかんないけどね。でも、どこに行っても大丈夫だよ、ここはどこまで行っても宙のホームだし、たとえ消えても、消えないから。って、言ってる言葉めちゃくちゃだな。

宙　……ありがとう。

と、店の扉が開く。松永がやってくる。

宙　いらっしゃいませ。

松永　……。

松永、いつもの席へ着くかと思いきや、宙の方へ歩みを進める。

松永　宙ちゃん。

宙　松永のおっちゃん。あのね、伝えなくちゃいけないことがあるんだ。

松永　わたしも、宙ちゃんに言いたいことがある。

宙　……なに。

松永　わたしね、もう一度でいいから、あのコーヒーゼリーが食べたいんだ。

宙　……店長の。

松永　そう。おっちゃんの一生の頼みだと思って、作ってはもらえないか。

宙　……ごめん。あのコーヒーゼリーは、あたしには作れないよ。

松永　親父さん以外だったら、きっと作れるのは宙ちゃんだけだと思っているよ。

宙　……無理だよ。何回も試したじゃん。

松永　そうだね。

宙　おっちゃんが違うって言ったんだよ。

松永　そうだね。宙ちゃんが作ったコーヒーゼリーは、なんとなく丸いんだ、味がね。

宙　多分、何回やってもそれしか作れないって。

松永　それでも、もう一回だけ、作ってみてくれないか。

宙　……おっちゃん。実はね、ここ閉めることにしたんだ。

松永　そうじゃないかなとは思ってた。

宙　そっか。

松永　……。

宙　……ごめんね。

松永　どうして謝るの。

宙　だって。

松永　だって。

宙　……。

松永　宙ちゃんはなんにも悪くないでしょう。親父さんとアキラさんと宙ちゃんと、3人で決めた事なんでしょう。

宙　うん。

松永　だったらなんにも悪くない。おっちゃんのことだって、なんにも心配しなくていい。行きつけの喫茶店だったらね、コスモス以外にもおっちゃん、たくさんあるんだよ。

宙　そうなんだ。

松永　そうだよ。だから、なんにも心配しなくていい。

宙　そうか。

松永　……宙ちゃん。

宙　……。

松永　だからね、ひとつだけ。おっちゃんのお願い事を、どうかよろしく頼みます。お願いします。

宙　……。ちょっとだけ、考えさせて。

松永　……（うん）、分かった。

松永、いつもの席には座らず、そのまま店を出る。

宙　……。

のどか　わたしも。

宙　？

のどか　今日は帰ろうかな。

宙　うん。ありがとね。

のどか　（思い出して）配達のお兄ちゃん、話出来るといいね。

宙　そうだった。あいつ、なんで逃げるかな。電話も出ないし。

のどか　（笑）

のどか、すこし改まって。

宙　？

のどか　……旅行。

宙　……。

のどか　行こうね。お店の事色々、全部終わるまで付き合うから、その後予定組み直して。

宙　……。

のどか　……ね。

宙　……（うん）、ありがとう。

のどか　じゃ。

宙　……うん。

のどか、去る。

宙、少しの間黙って考えている。

スマホを取り出し、どこかへ電話をかける。

舞台、転換となり、宙は外へ出ていく。

6．失踪

翌日。喫茶コスモスに、葵、富野、のどかの3人がいる。
富野とのどかは、どこか落ち着きのない様子。葵はいつも通りのようだが。
宙の姿は見えない。

のどか　お兄さんがさ。
富野　はい？
のどか　なんか変なこと言ったんじゃないの？
富野　言ってませんよ。というか、喋ってませんよ。
のどか　喋ってないの。
富野　はい。
のどか　電話、かかってきてたでしょ。
富野　……かかってきてましたねぇ。
のどか　折り返してないんだ。
富野　……。
のどか　お兄さん。
富野　いや、こっちの気持ちも察してくれてもいいでしょ。
のどか　気持ちって？
富野　……だから。
葵　まあまあまあ、二代目の気持ちもわかるよ、うん、寝耳に水で閉店って聞いちゃったらねえ、色々混乱しちゃうよね。
富野　……そうですよ。
葵　心細くなっちゃうよね。
富野　いや、心細いとかは、……あれですけど。
のどか　……。
葵　（のどかに）まあ、色々あんのよ。それに、今日のこれは多分、二代目のことが原因じゃないと思うしね。
富野　……。
のどか　葵さん何か知ってんの？
葵　（実は知っているが）……いや？　知らないよ？

のどか　（ハッとして）でも、合鍵。
葵　合鍵は昔から預かってたからね。わたし、のどかちゃんがうちに呼びにきてくれたから、この事知ったんだよ。
のどか　……そうか。

と、松永が来店する。

のどか　おっちゃん。
葵　いらっしゃい。
松永　……。どうしたの、みんなして。
のどか　おっちゃん、宙からなんか、連絡とか来てない？
松永　……いや。
のどか　あの子、お店ほったらかしにして、いなくなっちゃったの。
松永　いなくなった？
のどか　電話繋がらないし。ラインも既読つかないし。
松永　……。

なんとなく、各々に、思い当たることがありすぎる。
皆、黙ってしまう。葵がその沈黙を破って。

葵　まあ、大人なんだし、心配しなくてもしばらくしたら戻ってくるでしょ。
のどか　……それは、わたしもそう思うけどさ。
富野　こもれびさんは勝手だ。
葵　……。
のどか　え。
富野　本当に閉店する気あるのかな。張り紙もしてないし、配達してる店舗だってうちだけじゃない、パン屋もコーヒー屋も、みんなに早く伝えなきゃいけないのに、何やってんだよ。どこ行ってんだよ。組合にだって報告すべきだし、何より通ってくれてるお客さんに早く伝えるべきだ。この店を好きなお客さんはたくさんいるんだよ。久々に来て、閉店の張り紙だけ見るなんてそんなの悲しすぎるでしょ。こもれびさんはなんにも分かってない。

と、店のドアが開く。宙だ。

宙　富野の言うとおりだね。……ごめん、立ち聞きしてた。だから、おあいこね。

富野　……。

のどか　宙、どこ行ってたの。何回連絡しても繋がらないし。

宙　連絡？　あ、ごめん。電源入れるの忘れてた。

のどか　ええ？

宙　ていうか、葵さん。

葵　うん？

宙　臨時休業って書いといてってあたし朝に電話したよね。

のどか　え。

葵　（張り紙を忘れていたことを思い出し）あー……そうだね。

宙　そうだねって、ちょっと。「分かった」って言ってたのに。

葵　午前中のわたしにお願いするのが悪い。

宙　はぇ？

葵　午前中のわたしは基本使い物にならない。

宙　自慢げに言うことじゃないからね。この酔っぱらい。

葵　へへへ。

宙　笑ってごまかすな。

のどか　ね、じゃどこ行ってたの。

宙　……。それは。

宙、松永に向き直り。

宙　おっちゃん。

松永　ん。

宙　聞いてきたから、もう一回、作り方。来週食べにきて。

松永　……分かった、ありがとう。

宙　……。

宙、富野に向き直り。

宙　富野。

富野　……。

宙　あたし、富野に一番言いづらかったんだ。閉店のこと。だって反対するの分かってたから。

富野　ぼくが反対したら、こもれびさんは閉店しない方を選ぶ？

宙　……、（首をふり）、閉店はする。

富野　……。

宙　でもね、富野があたしの事、自分とよく似た境遇だって思ってくれてたみたいにね、あたしは、富野がどんどん、人生を獲得していくのが、なんというか、羨ましかった。勝手に、自分のもう一つの道を堂々と進む、もう一人の自分みたいに、富野を見てた。だからその富野に反対されるのは、辛いなって。

富野　ぼくのせいにするなよ。

宙　……。

富野　ぼくとこもれびさんは違う。ぼくはぼくで、こもれびさんはこもれびさんでしょ。こもれびさんの人生とぼくの人生は違う。そんな言い方失礼だ。

宙　……。ごめん。

富野　……なんか色々腑に落ちた。

宙　なに。

富野　ぼくね、あの時、こもれびさんがこの店を選んだのがよくわからなかったんだ。古物商の彼と一緒に行くもんだと思ってた。あんなに慕ってたし。でも、こもれびさんはこの店を選んだ。その後、こもれびさんは、前よりぼくと仲良くするようになった。ものすごく。あの時は、寂しいだけなのかなと思ってた。けど、なんか違和感だった。それがやっと分かった。あれは、もう一人の、別の道を行く自分自身に、擦り寄ったただけなんだ。こっち側に来るつもりも、その勇気もないくせに。

宙　……うん。

富野　ごめん。……ぼくはね、こもれびさんがここを継いでくれたら本当に嬉しいなと思ってた。でも、閉店するの、反対しない。責任持って閉店して欲しい。

宙　分かった。ごめんね。

富野　謝るなって。ぼくも正直頼ってたし。

宙　ごめん。

富野　なよなよすんなって。……ぼくも同じだから。もしぼくが店を継がない道があるとしたらどう生きるだろうって、そんな目でこもれびさんを見てたこともある。

宙　うそ。

富野　ほんと。

宙　真似すんなよ。

富野　こっちのセリフ。

宙　……。

富野　ぼく、春には父親になる。

宙　え。うそ。

富野　ほんと。こんなの嘘言ってどうすんの。

宙　でも、ちさっちゃんから、なんにも聞いてない。

富野　ちさとは内緒にしてたみたい。でも、別にこもれびさんなら、言ってもいいでしょ。

葵　おい二代目、そういうところだぞ。

富野　え、なにが。

のどか　さっきまでいいこと言うわぁって聞いてたけど。

富野　なにが。

松永　詰めが甘い。

富野　なに。

宙　いいよ別に。だからあたしも甘えてたんだ。

富野　……。とにかく、ぼくはどんどん人生進むから、こもれびさんも、頑張って。

宙　……（急に脱力して）出来るかなぁー。

富野　ええ？

宙　だってあたしまだ、全然ゆるゆるだし、閉店するって決めたのに、岡山も行くって決めたのに、この後に及んでまだ、彼と最後に見た景色を見たいなんて思っちゃってるしー、でも一人で行く根性ないから友達巻き込んじゃってるし。ぐらぐらだー。さいていだー。

葵　ま、いいんじゃないの、ぐらぐらのまんまで。

宙　いいのかなー。

葵　いいよー。まあ、どうしてもキツかったら、ここにいる人たち頼ればいいのよ。だってたった半日店閉めただけで、心配する人たちだよ。

宙　……。
葵　宙ちゃんは、この人たちのこと、面倒だと思った？

宙、喫茶コスモスに集まった面々を、改めて見て。

宙　……全然。嬉しかった。
葵　そういうことだよ。
宙　うん。

と、誰かのスマホのバイブレーションがブーっと鳴る。
皆、それぞれにスマホを確認。
音の出所はのどかや、富野のものではなかった。
宙のスマホは電源が切れている。松永も違う（又は持っていない）。
鳴ったのは、葵のスマホだった。
葵、届いたラインを確認して。

葵　やば。ナノちゃんちょうキレてる。
宙　え。
葵　今日早上がりだったの忘れてた。
宙　ちょ、早く帰ってあげて、早く。
葵　ごめん、また話聞くから。
宙　うん。ありがとう。
富野　ぼくも行くわ。仕事残ってるし。
のどか　わたしも。明日納品の荷物、やってる途中だった。
宙　のどか、ありがと。富野も、ありがとね。
富野　明日また顔出すから。
宙　なんで。閉店の打ち合わせ？
富野　いや、普通に。
宙　普通に？
富野　普通に喋りに来る。こもれびさんと普通に喋れなくなるのは嫌だから。
宙　……。（へらっと笑って）分かった。じゃ、明日は好きなメニュー奢ってあげよう。
富野　いらないよ。

宙　なんで。
のどか　そうだ。
宙　なに？
のどか　旅行先の話、今度詳しく聞かせてもらうからね。
宙　……分かった。

じゃあね、じゃあ、と口々に交わし、みんな、行ってしまう。
松永も、流れでそっと出て行こうとしている。

宙　おっちゃんも急ぐの？
松永　いや。うん、まあ、うん。
宙　いつものコーヒーだったらすぐ作れるけど。……淹れよっか？
松永　……じゃあ。うん。

松永、ちょこんといつもの席に着く。
宙と、松永だけが残る店内。
宙、サロンを身に着け、コーヒーの準備に取り掛かる。
転。

7．また会いましょう、ってね

週明けの、喫茶コスモス。
営業中。静かな空間。宙と松永がいる。
松永はいつもの定位置に座り、待っている。
宙はカウンターの中で支度をしていたが、
やがて松永にコーヒーゼリーを持ってくる。

宙　お待たせしました。
松永　……。

松永、コーヒーゼリーを一口、含む。

宙　……どう。
松永　……宙ちゃん。
宙　はい。
松永　どうもありがとう。
宙　店長の味になってた？
松永　……。うん。「店長」の味だよ。

宙は、松永が父親を「店長」と呼んだことなどないことに気が付く。
松永の言う「店長」には、きっと別の意味が込められているのだろう。
それを悟りつつも、宙は言及しない。

宙　……ほんとに？
松永　うん。本当に。
宙　そうか。なら、よかった。
松永　……。
宙　……。
松永　……昔ね。
宙　なに。

松永　わたしと富野の大将と、他にもいろんな奴らでね、よく噂してたんだよ。親父さんとアキラさん、いっつもここで喧嘩ばっかりしててねえ、だから、いつまでこの店持つんだろうねとか、カップルで来たら、つられて喧嘩になるんじゃないかねえ、とか、色々、ふざけて言い合っていた。

宙　うん。

松永　そこから、宙ちゃんが生まれて、お客さんが増えたり、減ったりしながらね、でも、コスモスはずっとここにあって、結局こんな歳になるまで通う事になった。おっちゃんね、もっと早くに潰れる方に、掛けてた事もあったんだ。

宙　なにそれ。

松永　（笑って）……わたしがこの店からもらったものは、いい出会いばっかりだった。本当に、今まで、いい時間ばかりだったよ。ありがとう。

宙　……。

松永　ご馳走様。（お代を払おうとする）

宙　お代はいいよ。試作品だしね。

松永　いや、そういうわけには……。

宙、松永にメモ書きを一枚差し出して。

宙　お父さんの入院先。渡しておいてって頼まれた。

松永　……。

宙　「コーヒー淹れるぐらいの元気はあるから、一度くらい顔見せろ。」

松永　……。

宙　伝言。

松永　分かった。

宙　さっきのも、あたしに伝えるんじゃなくて、本人たちに直接言って。

松永　……。

宙　ね。おっちゃん。

松永　……そうだね。……ありがとう。

松永、メモ書きを受け取り、持っていた文庫本に挟んで店を出る。

宙、それを見送り、食べかけのコーヒーゼリーを片付ける。

静かな店内に、宙、ひとりきり。

宙

スマホを取り出し、誰かに電話をかける。
コール音を聞く宙の表情は、硬い。
電話、繋がったかと思いきや、宙は黙ったまま。
留守番電話に繋がっただけだった。音声ガイダンスを聞いて、それから。

もしもし。
覚えてますか。宙です。番号変わってないんだ。元気ですか。
喫茶コスモス、なくなります。……それだけです。
移転先は、不明です。
……どこかで、また会いましょう……、ってね。嘘。
……さようなら。

宙、通話を切る。
サロンを外し、店内の電気を消し、店を出ていく。

幕

〈上演記録〉

路地裏の舞台にようこそ2024参加作品
羊とドラコ　おやすみ前公演
『また会いましょう、ってね』

●出演
こもれび宙　……　水木たね（りゃんめんにゅーろん）
富野　……　ツジコウイチ（コッコア）
葵　……　清水かおり（TAKE IT EASY!）
のどか　／　母　……　河上由佳（満月動物園）
松永　／　父　……　桐山篤

●スタッフ
脚本・演出　竜崎だいち
舞台効果　toy-2
舞台写真　河西沙織（劇団壱劇屋）
会場運営　羊とドラコ
協力　りゃんめんにゅーろん　満月動物園　TAKE IT EASY!　コッコア
劇団壱劇屋　江本真里子　喫茶コスモス　路地裏の舞台にようこそ

●開催日
２０２４年９月２１日（土）～２３日（月祝）　全７回公演

●会場
喫茶コスモス
大阪府大阪市西成区花園北２丁目２－２

こちらの作品の著作権は放棄しておりません。
上演等のご相談や、各種お問い合わせは、左記メールにご連絡ください。

羊とドラコ　竜崎だいち　ryuzakidaichi@gmail.com